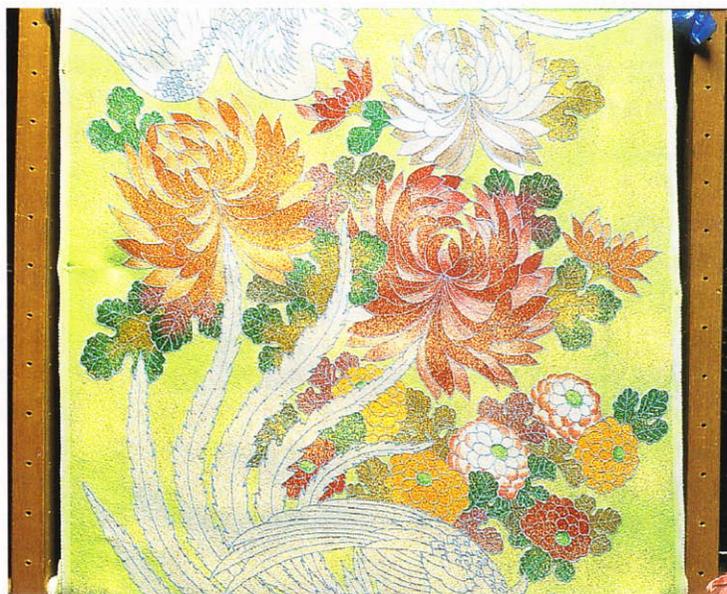




東京都立武蔵高等学校  
同窓会事務局  
東京都武蔵野市境4-13-28



習作中の手描き友禅

菅原孝子(旧北島)  
3回生E組

## ● 同窓会総会のお知らせ ●

(新会員歓迎会を兼ねる)

日時 6月5日(日)午後1時～4時  
場所 母校会議室  
会費 無料

同時開催 『むさし画廊』

会場を画廊風に設え、先生や同窓生の名画に囲まれながら、旧交を温め語り合う楽しい会です。ご期待下さい。  
御出展頂く方は、原田博介先生(図工)手代木克信さん(10回生)、児玉順子さん(12回生)、木村秀夫さん(25回生)他です。

その他 当日、受け付けにて年会費の納入手続きも行なっています。  
又クラス会、同期会の為の教室をご用意出来ます。御計画の幹事さんは早めに事務局まで葉書でご連絡下さい。

※出展者プロフィール

◎原田博介先生

東京美術大卒、武蔵、立川高校を経て明星大講師、東光会委員、絶展同人として現在も活躍中。

◎手代木克信さん

武蔵野美大卒、黎の会同人、新制作・国際形象展出品

◎児玉順子さん

仏国立グルノーブル美術工芸学校卒、二科会友、銀座越後屋にて個展10回

◎木村秀夫さん

独学、無所属、武蔵野風景、著「我武蔵野を独り歩く」、前回の会報で紹介。

6月2日～7日まで、東京大丸百貨店にて油絵展『武蔵野を描く』開催予定



## 武蔵の校風

校長 嵐田 薫

先日大菩薩ヒュッテ運営委員会が開かれ、同窓会長や山岳部OB会長のお話を伺う機会がありました。ヒュッテの管理、運営に多大のご努力を払われている同窓会、山岳部OBのご苦勞を知り、改めて感謝申し上げる次第です。

本年度から都立高校は従来のグループ選抜から単独選抜制度に変わり、また新教育課程の実施など大きな変革の年を迎えました。今回の入試改革は各高校が各々の特色を打ち出し、「入れる学校より入りたい学校」を歌い文句にした改革の筈でした。しかし蓋を開けてみると予想に反し、各学区のトップレベル校を中心に定員割れし、二次募集する進学校が続出しました。本校も二次募集をしましたが、結果的には意欲のある生徒が多く集まったのではと思われ、今後の成長を期待したいと思っています。

「武蔵高校は自由で伸び伸びとしている」「勉強も良く出来るがクラブ活動が盛んで運動部も強い」等、地元の方々から好意的で高い評価を頂いているようです。

本校の校風は、私の目に映る印象では、先ず「教員も生徒も授業には熱心に取り組み、授業を極めて大切にすると」言う事です。しかしクラブ活動や学校行事も大変盛んで、生徒の自主的な企画・運営の力量には素晴らしいものがあります。

そして個性と自主性を尊重し、規律もしっかりと守られ、その結果として進学の実績も素晴らしいものを残していると思います。

もうひとつ目に映るのは、生徒達が大変行動的で、特に海外へ強い関心を抱き、積極的に外国へ出かける者が目立つことです。毎年在校生の中から海外へ留学したり、東京都や武蔵野市等の主催する短期の海外研修に応募する者がかなりの数にのぼっています。昨年の夏休み、多摩32市町村主催のハバロフスク自然探検隊に参加した一年生女子生徒の頼もしい姿に接し、武蔵の校風の素晴らしいさを痛感しました。

本校では、知・徳・体のバランスのとれた人間の育成を目指し、理想的な人間教育の場が日々の

教育活動において展開されていると自負しております。武蔵で育った個性、自主性、豊かな知性、強健な身体、幅広い人間性は長い人生の中できっと光り輝き、将来大きく伸びる人材を育成できると確信しております。

2年後に同窓会設立50周年を迎えます。母校の年表によると『武蔵高校』の前身、東京府立第13高等女学校が設立されたのが昭和15年1月12日。その6年後の昭和21年1月27日に高女1・2回生によって同窓会第一回総会が開催されたとあります。470名の会員でスタートした同窓会も現在では約1万8千名を擁する大きな組織となり、設立当初の先輩方にとっては正に隔世の感があるのではないのでしょうか。

『同窓』と言う言葉に特殊な響きを私は感ずるのですが如何でしょうか。その辺のところを作家森村誠一氏はある作品で、『小・中であり、実社会から保護者によって隔られている意識が強い。大学になると、完全な大人隣接している。学は世界から集まっ高校は精神は大人のに、地域社会かいるので小・中学強い。生徒の中である。これだけニティ、同年配の活時間の大部分を共有する時期は高校以外にはないだろう。それが自分の人生にとってどんな意味を持つか実感するのは社会へ巣立ち、離郷して何年も経ってからである。』と表現しています。『同窓』の持つ語感を如実に解明されてあるので少々長い引用させていただきました。

とあれ50年の年輪は『同窓』の味わいを実感できる時期に差し掛かったのではないのでしょうか。同窓会も2年後の50周年記念事業を実のあるものとするために、運営委員会を中心にプロジェクト・チームを発足させました。『50周年』を全会員の喜びとすると共に、『同窓』の持つ意味合いを改めて噛みしめてみる機会としたいものです。

同窓会50周年を前にして

同窓会長 若井博

## ●第二の故郷便り 「かりん」の里から

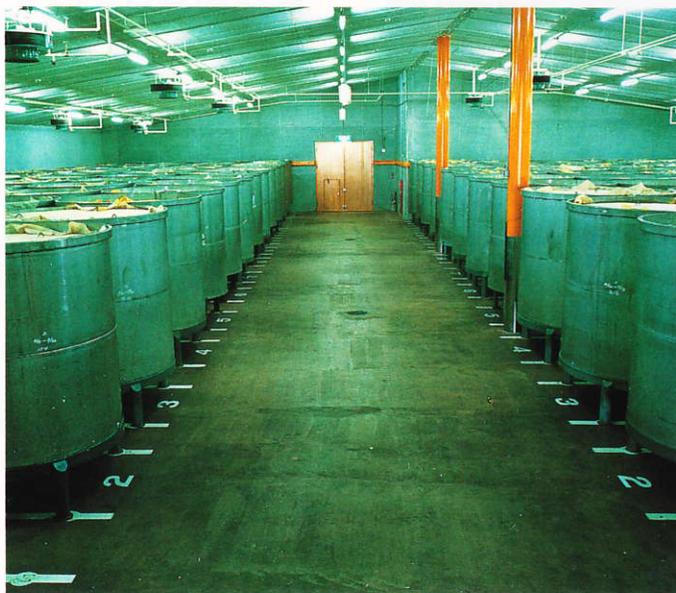
「かりん」の里から皆さんにご挨拶できることを心から誇りに思います。ここ信州の味噌生産高は全国30%強のシェアを誇っており、私の勤務する山高味噌㈱は「かりん」の里の舞台になっている地方でも大手に位置し、私は小森屋の旦那よろしく「みそ」にこだわり続けています。

この機会に、改めて学生時代から現在までをふり返ってみたいと思います。武蔵に入学したのは昭和34年で、入学と同時に山岳部に席を置きました。現武蔵野市長であります土屋リーダーのもと、南アルプス10日間の縦走をはじめ、北岳や多くの山々の春夏秋冬の姿に感動を覚えたことが、今でも脳裏に鮮明に浮かんできます。この3年間の山岳部の生活は私にとって正に青春そのものであり、第二の故郷へのスタートになるとは夢にも思っていませんでした。

高校、大学時代に何度か八ヶ岳に登山しているうちに、山は近いし空気は澄んでいるし、美人で気立ての優しい女性がいたそうだったので、ここ茅野市に住んで見たい気持ちにかられました。昭和41年東京農業大学を優秀な成績で卒業すると同時に、大学で学んだ醸造学を生かすために山高味噌㈱に何の躊躇もなく入社しました。この年、研修のため信州味噌研究所でみそ醸造の基礎と酒の飲み方を一年間みっちり勉強しました。茅野市を含むここ諏訪地区は、当時20数社のみそ工場があり信州の総生産の30%を生産し、品質、量ともみそのメッカと言われてきました。その理由は、みそ品質向上のため月に一回、経営者と技術者が一堂に会し勉強会を催したためです。そんな時、私は微生物に興味

を持ち、他社に先駆け酵母利用を成功させ、その名も「ふるさと」として今でもメイン商品としてヒットしています。現在は工場長として、みそ以外の食品も研究、開発中です。これをご縁に、武蔵出身の蔵人の造ったみそを是非ご利用願いたいと思います。

早いもので、茅野市に根をおろして28年になります。その間、皆さんもご存じの日本三大奇祭のひとつ、七年に一度の御柱祭に三回参加しました。春とはいえ2メートルを越すような雪の中、八ヶ



岳御小屋山から直径1メートル、長さ20メートル余のモミの大木を切り倒すことから祭りは始まり、4月には、山から里まで引き出す山出し、そこから諏訪大社まで引っ張る里引き、更に、神社の四隅にその柱を立てる建御柱で全てを終了するのです。初めて見る人は、人間のなせる技と

は信じがたいと思いますが、一度参加すると病みつきになります。

家からは、八ヶ岳、蓼科岳、入笠山、霧ヶ峰へは日帰りができ、冬はスキー（私はもっぱらウイスキー）春はせり、ふきのとう、わらび、たらの芽採り、夏は高山植物の観賞、秋は山ぶどう、茸採り、紅葉観賞など楽しめます。その上、私にとっては身に余る、美人でやさしい女房に巡り合いました（デレー）。山と味噌と女房があれば金は少しあれば他に何もいらぬ第二の故郷です。

大菩薩ヒュッテの茸パーティーで再会できることを楽しみにし、また、武蔵が未来永劫に続くことを祈念して筆を置きます。

## 水泳部完全優勝をバックアップ

現役時代には長く感じられた水泳部の1年間も、OBという視点から眺めると、時々会う先輩達の成長に目を見張るばかりで、あっという間に過ぎて行きます。

4月上旬には、新OB・OGの顔見せのOB会が開かれます。ゴールデン・ウィークには大菩薩ヒュッテで親睦会を開き、その年のコーチを決めます。コーチは現役生の練習メニューなどを作成します。8月には武蔵のプールでOB会が開かれ、現役生と一緒に楽しい1日を過ごします。

夏の最大のイベント西東京大会には多摩地区の国公立高校約25校が参加しますが、各校のOBが大会を運営するため、忙しくなるときです。去年は先輩達がこの大会で男子の部、女子の部、総合と、完全優勝を果たしてくれ、OBとしても嬉しい限りです。

秋には、現役生とOBで大菩薩ヒュッテに出かけます。夏に武蔵に行く機会の少なかったOBはこの行事で現役生の名前を覚え、縦の関係をより強くします。現役生の新年会やスキーに参加するOBも多いようです。

OBの行事を紹介すると同時に現役生の1年間を紹介するような形になってしまいましたが、それだけ現役生とOBのつながりが深いという事だと思えます。



水泳部現役とOBの交流会

昭和23年卒 東組

### 春の一日、志津先生を囲んで歓談

「時間を気にしないで、ゆっくり話しあいたいわね」というわけで、自宅（国立）開放ということになりました。

桜は五分咲き、天気良し。この上もなく恵まれた四月三日、志津志女子先生をお迎えし、生徒13名が集まりました。

ご両親やご主人の介護に心を砕いている人、目下闘病中の人、いつも元気いっぱいの幸せな人、それぞれの立場からの話に共鳴したり感動したり。時々沸き上がる歓声が、八畳の部屋から溢れました。同級生のように若々しい先生の温かい

微笑み、ほのぼのとした気持ちにさせてくださる穏やかなお話しぶりも懐かしく嬉しいものでした。

六十を越した私達は、今後の高齢化社会が抱える問題に話は尽きず、夕刻六時頃、次回を楽しみに散会しました。

昭和23年3月卒 3年東組

片桐重雄先生・志津志女子先生クラス

「あしぶえの会」当番 須藤

昭和38年(15回)卒 F組

### —30年ぶりのクラス会—



鈴木先生を囲んで15Fのクラス会

昨年10月16日(土)、吉祥寺第一ホテルにて卒業以来初めて、30年ぶりのクラス会がもたれました。

31名という予想外の出席者があり、私達と年の差がぐっと縮まった感じの、お若い鈴木先生を囲んで、食事の手も止まりがちなほど、話しがはずむ楽しい会となりました。

30年という年月、それぞれの人生にいろいろな事があつたはずなのに、みんな穏やかでやさしく、あらためてこんなに良い人達ばかりのクラスだったんだと懐かしい思いが胸一杯にひろがったひとときでした。

昭和38年(15回)卒 G組

### 卒業後30年目の大菩薩行き、そして25年ぶりのクラス会!!

私たち昭和38年卒業G組は、10人の男女有志が集まって、昨年9月末、大菩薩行きを決定した。しかし、何十年ぶりかで行く大菩薩に、一同驚きで声もなし。福ちゃん荘まで車で行けるし、武蔵の山小屋は、トイレは水洗、ガスはある、お湯は出る、お風呂もある!こんなに便利でいいのだろうかと一抹の後ろめたさを感じながらも、文明の利器を大いに利用させていただいた。

この大菩薩行きが引き金となって、今年の1月22日、全日空ホテルで、担任の赤津貞先生を囲んで25年ぶりのクラス会が開かれた。出席者は総勢20名。みんないいオジサン、オバサンになっているけれど、高校時代そのままの声、雰囲気、話し



赤津先生もお元気!! 15Gクラス会

方で、目をつむると18才のころにタイムスリップしたよう。赤津先生はすっかり太られて、一番変わられた方だと思うが、でもあのやや東北訛りのある話し方はまぎれもなく3年間お世話になったなつかしい先生だった。

高校の3年間の思い出を共有しているというの

は、ある意味でとても幸福な人間関係だと思う。そんな安らぎのある関係をまた次回に託して、三次会までいって会はお開きになった。

## 高校6回生 第8回 同期会のお知らせ

今回も大勢の皆様のご参加を得て、旧交を温め合い、これから迎える高齢化時代を共に元気に生きていきましょう。

詳細は各級幹事にお尋ね下さい。幹事級は、E組です。  
日時 平成6年10月1日(土) 午後4時~2日(日) 1泊  
場所 熱海市内 後楽園ホテル

## 骨髄バンクを知っていますか

お茶の水女子大学舞踊教育学科4年  
清水 真帆 ('90.3卒 3B)

「骨髄提供者がバンクでみつかりました。」そう主治医に言われたのは急性骨髄性白血病と診断され入院してから4か月、昨年6月のことでした。

発病前は、ダンスにサイクリングにと健康そのもの、忙しい大学生だっただけに、白血病は本当に突然でした。

白血病という病名は有名です。しかしこの病気により、交通事故の年間死亡者数の半数にあたる約五千人が毎年命をおとしていること、原因不明であること、そして再生不良性貧血などとともに、今では骨髄移植という方法で治る病気になってきていることは、あまり知られていません。

私も健康な頃は何かと知りませんでした。この病気のこと、移植やバンクのことを勉強するうちに、多くの人にバンクや移植について正しく知ってもらふ必要を強く感じるようになりました。そこで病室で友人に説明したりピラを作ったりということを始めるところ反応が良く、友人、家族の協力を得て運動は広がり、MahoNET-21骨髄バン

クを支える大学・市民ネットワークという組織ができました。

私は昨年11月に骨髄移植を無事終え、現在準無菌病棟で退院する日を待っています。

骨髄提供者を待つ患者さんが一人でも多く私のようにチャンスを得て健康を取り戻せるよう、これからもずっと運動をつづけていくつもりです。

### —MahoNET-21へのお誘い—

白血病が身近な難病であること、骨髄移植がその有力な治療法のひとつであること、その治療を実現するためには、骨髄バンクへの理解の拡大と、完全無菌室の拡充が急務であること。この3点を中心に訴えてゆくことが、私達の運動の趣旨です。

都立武蔵の遠藤教頭先生をはじめ諸先生にも多大なご協力をいただきました。

MahoNET-21の活動にひとりでも多くの方々が参加して下さいますよう、お願い申し上げます。

(事務局)



清水真帆さんがモデルになった骨髄バンクのポスター

連絡先：〒340 埼玉県草加市学園町1-1 独協大学内

MahoNET-21本部事務局

TEL/FAX：0489-43-6735

〒202 保谷市北町5-10-15 清水 真帆

TEL/FAX：0424-22-0423

振替口座：00190-0-764480 名義：マホネット21  
骨髄バンクへのお問い合わせは

骨髄移植推進財団 フリーダイヤル

0120-377-465へ

# 大菩薩 ヒュッテ

山岳部同窓会事務局

同窓会「武蔵」を通じて大菩薩ヒュッテからの  
お便りを皆様にお届け出来るようになり3年が過  
ぎました。この間、改修・修理も順調に進み昨年  
には東京電力の協力により太陽電気発電（ソーラ  
ー方式）が設置されヒュッテに照明が灯りました。  
床はカーペットを張り居住性を一段と快適にし  
又、トイレは簡易水洗式に工事を実施いたし一段  
と衛生的となりました。

秋のある日、紅に染め上がった峠から嶺へと足  
を伸ばし薄暗くなった頃帰って来るとヒュッテの  
煙突からは煙が出ていて入口には燈火が一つあた  
たかく点ってました。なぜか一瞬「幸せ」を感じ  
る時です。ヒュッテの中では和らかい照明の下で  
今夜の宿泊者が食事の準備を楽しそうに進めてお  
ります。三人の男女がストーブを中心に思い思い  
の場所に腰を落ち着けて武蔵時代を雑談していま



す。ストーブの前に座り、夏の間私達が準備し  
た薪を宝物を扱う様にしてストーブにくべると薪  
は強く弾けてストーブの中で踊り、部屋の照明を  
一層に和らかくしてくれます。

「火って、いいなあ」三人の中の一人が言いま  
した。

「いいですね」と私も言いました。三人の手に  
は香り高いコーヒーのカップがありました。

新しいカーペットの上で転た寝していた一人が  
起き上り、「僕にもコーヒー」。至福の時。

## 今年もどうぞ、大菩薩ヒュッテへ!!

クラス会で、クラブOB会で、知人仲間  
で(申し込み方法)……山岳部OB会事務局へ

## 1993年の1年

宿泊 大人 171名 現役36名 子供12名  
合計 219名

日帰 43名 6月26日より11月13日までの22週  
の内17週24パーティーの方々に利用いただきま  
した。5月より6月26日まではソーラー、ト  
イレ工事のためご利用を中止し、この間お申  
し込みの方にはごめいわくをおかけいたしま  
した。山岳部OB会では延154名の者が小屋番、  
ソーラー、トイレ、床補強、薪調達、トイレ  
貯槽清掃等の工事、作業のため楽しみながら  
大菩薩に登りました。

乗用車でヒュッテ手前10分の所まで行けます。





### ヒュッテの住人 —— やまね ——

僕が武蔵のヒュッテに住みついてもう何年間が過ぎました。でも近頃は以前と比べると大勢の人が、ヒュッテにやって来て、僕を慌てさせます。

だけれども皆さんやさしく僕の家族を見守ってくれますので、僕達はここから離れません。

どうぞ皆様よろしくお祈りします。

僕は漢字で「冬眠鼠」と書きます。ネズミヤリスと同じ哺乳類げっ歯目に属するヤマネ科の動物。体は人の手のひらにのるくらい小さく、優しい愛らしいひとみ、大きなしっぽ、やわらかなふさふさした毛で、頭から尾にかけて黒い毛の筋が入っています。体重は30g位で寒くなるにつれ40g位まで増え冬眠に入ります。

まりのように体を丸めて眠る姿から「マリネズミ」とも呼ばれています。国の天然記念物に指定されていて日本の僕等の仲間には本州と四国、九州だけに生息しています。

上の写真はヒュッテに来た人間の親子の会話を聞いていた時のスナップです。僕のお母さんも人間に負けない愛情をもち、僕たち子供等が生きていくのに必要なことを教えてください。

デハ又 ヒュッテで。夜行性ですので夜に。



### 手造り絵葉書

この頁の3枚を含め、8枚の写真で構成する絵葉書が山岳部同窓会メンバーの一流写真家(?)により完成いたしました。この絵葉書の収益は、ヒュッテの維持・管理のカンパとして生かされます。¥1,000。申し込みはハガキで。

## 大菩薩へ行こう!

平成5年8月21日朝7時、懐かしい12Gの面々が中央線高尾駅下りホームに集まって参りました。7月の末頃臨時のクラス会の形で“大菩薩峠へ行こう”との呼び掛けに集まって来たメンバーです。加藤先生を含め17名の参加となりました。高尾より塩山までの車中では、すっかり18才の頃の少年少女(?)に戻りまるで遠足気分です。塩山からは三台のタクシーに分乗して福ちゃん荘までゆきます。途中の酒屋さんで、これが何よりの楽しみというメンバーの希望で、ビールの仕入れです。福ちゃん荘から武蔵山荘までは徒歩で10分程で着きました。その昔裂石から3、4時間かけてやっとたどり着いた山荘に、こんなに簡単に着けるなんて感無量です。30余年前にクラス会で登って以来のヒュッテの様子は、その過ぎた年月をわすれさせる昔のままの姿です。

窓はサッシに、水は蛇口から、トイレは水洗に、山岳部OBの皆様のお陰で随分と便利になってい



ますが、ヒュッテを取り巻く樹々の匂い、わたる風の爽やかさは、昔のままのような気がします。

武蔵山荘に来ることが目的で、山に登る自信がないという二人を残して、加藤先生含め15人のメンバーは峠へ向けて出発です。歩き始めの20分位は結構な登り道で、全身が汗ばんできました。途中森林帯のとぎれた場所があって、遠くにうっすらと富士山を望むことができました。ヒュッテから50分位で標高1897mの峠に着きます。眼前にひろがる眺めはなんと素晴らしく、都会の排気ガスで汚れた肺の中を、この綺麗な空気で満たしたく何度も深呼吸をしました。

昼食後ヒュッテまで戻り、山の水で適度に冷えたビールを戴きながら、この次は是非この武蔵山荘に、泊まりがけで来たいものと再訪を約して山荘を後にしました。



## 『夫唱婦隨、婦唱夫隨』

菅原勝郎先生、孝子夫人の場合

同窓生にも高齢化の波が押し寄せ、定年に突入又は間近な人が増えつつあります。第二、第三の人生に向けて夫々御計画怠り無いことと思いますが、良い趣味を持つことは、新しい友にも恵まれ、将来の生活に張りを持たせてもくれましょう。

昭和23年から27年迄の5年間、武蔵で英語を担当された菅原勝郎先生と、3回生の北島孝子さん御夫婦がこの秋銀座で仲良く2人展を開かれます。御主人は焼き物、奥様は手描き友禅と、共に伝統工芸への造詣を御披露される由。

たまたま御近所に焼き物をなさる方が居られたことから定年後の生き甲斐のための趣味にと発心

し、その師匠について修業、やがては庭先に窯も設え自分なりの工夫を凝らした作品を年に数回焼き、15年のキャリアになる先生。片や奥様の手描き友禅は図案を考える所に始まり、糊を口金の付いた紙筒に入れ指先で絞り出しながら模様をなぞり、刷毛で染色し、これを定着させた後水洗すると糊が流れて模様を浮かび出すという手の込んだもので、友禅独特の色のぼかしが艶やかな振り袖や帯になるまで数箇月は掛かるといいます。

萩窪のお宅では、お子さまの独立された後、お二人で夫々の趣味を活かされ、揺るぎ無い人生をお過しと見受けられました。



### 菅原御夫妻による2人展のお知らせ

平成6年10月3日(月)～9日(日) 11:00～19:00  
ギャラリー 銀座 SAN BAN KAN  
中央区銀座3-11-1 参番館B1 TEL.03-3546-0220  
最寄駅：銀座線(銀座)、有楽町線(銀座一丁目)  
日比谷線・浅草線(東銀座)



### 山岳部OB会のお知らせ

6月5日(日)母校同窓会総会終了後、午後4時より別室にて山岳部OB会を開催します。皆様お誘い合せの上、総会出席と併せてお集り下さい。

会長 津山 弘志